

2023年度 学童保育指導員研修 レポート

【クラブ】(たけのこクラブ) 【名前】(岩井 里真)

① 参加した研修名をお書きください。

名称 (基礎研修「学校教育論～学校とはなにか～」)

②心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

子ども達が毎日通っている学校とはなにか、そして私自身が通っていた頃の学校の在り方との違いや子どもの違い、情勢による違い等を知り、子ども達がどのような思いで学校に通い、そこからどんな思いをもって学童に帰ってくるのか考えるきっかけにしたいと思い、今回の指導員研修では、この基礎研修「学校教育論～学校とはなにか～」を受講しました。

“学校”という物の本質は、大きくは変わることが無いと思いますが、やはりその時代に合わせた教育や指導の方法は変化させていく必要があり、“学校”とひとくくりに言っても変化はし続けているのだと感じました。と同時に、その変化に対応していかなければいけない教員の方々のお仕事も、本当に大変だなと感じました。

時代や情勢の流れに合わせて子ども達の学習量も増えており、ゆとり世代の私からすると、中学校で習ったはずの英語や古文等を、小学生から学習し始めている今の子ども達は、宿題が増えたり、塾に通ったり、学習以外でも習い事をしたりと、遊ぶ時間が減って大変そうだなと感じると共に、遊ぶことから得られる学びが減っているのだと感じると可哀想だなとも感じました。私自身も子ども達に対して、宿題の量を考えると、“学童くらいは帰って来て友達と大いに遊ばせてあげたい”が“学童で宿題を終えておかないと家に帰ってからの親子共に大変なのではないか”という思いで葛藤している部分があります。学習量の増加は子ども達にとってどう影響しているのか考えると難しい点だと思いました。そして、何より、子ども一人ひとりにあった学習量や学習方法が大切だと感じました。小学校のカリキュラムでもそういった学習方法がもっと取り入れられていくと、日本の学習がよりよくなっていくのだろうなと感じました。

また、ICT教育等についても、時代の流れから考えると取り入れ活用できれば、授業や学習方法の一つとして大きな成長や進歩なので大切なことではあるが、これまでの日本の教育方法から見ると、学校も家庭も環境が整っていないとできないし、子ども含め特に大人(教職員や保護者)には苦手意識がある方も多いので対応していくのが大変だなと感じました。学童でも、環境の問題もあり、利用の許可の線引きが難しいと感じました。

今後も、学校、保護者、学童がもっと密になり、互いに互いの活動を理解し、子ども達のためにより良い環境づくりができるよう歩みよっていきけるといいなと感じました。